



ハイライトよねやま 182

2015年5月13日発行
公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

寄付金速報 —残り2カ月をよろしくお願ひします—

4月までの寄付金累計は前年同期と比べ5.6%増、約6,600万円の増加です。普通寄付金が2.4%増、特別寄付金が7.2%増となりました。今月は法人からの大口寄付や先月以上に多くの創立記念寄付などをいただいたことで、寄付累計額は4月も好調のまま推移しています。ご協力くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。今年度も残すところ2カ月弱となりました。普通寄付金をまだお送りいただいていないクラブがありましたら、お早目にご送金くださいますようお願い申し上げます。

ネパール大地震について

4月25日にネパールで大地震が発生し、甚大な被害が出ていることに心よりお見舞い申し上げます。

米山記念奨学会では、これまでに支援したネパール出身の奨学生・学友211人のうち、メールアドレスをもつ185人にお見舞いメールを出しました。現在、安否確認ができた学友は70人ほどで、「実家の自宅が全壊した」「母が亡くなった」「自宅がなくなり、避難所にいる」などの返信が届いています。

ネパール出身の学友を中心に、個人や学友会、ロータリー地区単位での支援活動も広がりつつあります。米山学友のジギャン・クマル・タパさんとエソダ・バスネットさんご夫妻は、地震発生直後から在日ネパール人たちと協力し、まずは必要なところへ緊急支援をしたいと奔走中です。日本ネパール協会理事をつとめるタパさんは、5月7日から寝袋や女性用品、軍手、マスクなど緊急物資をネパールに運び、被害の大きい村々をまわりながら、瓦礫撤去のボランティア、信頼できる現地団体への支援を行いつつ、現地情報を収集しています。



がれき撤去をするタパさん(右から4番目、フェイスブックより)



自宅が半壊したプレムさん(PHD 協会坂西事務局長フェイスブックより)



仲間と日々寄付を呼び掛けるビカス・ラムサルさん(中央帽子の男性)

ネパール出身の米山学友ビカス・ラムサルさんは、足利工業大学で仲間とともに日々募金を呼び掛けています。

米山学友が中心となって設立した東京米山友愛RCでも、ネパール支援のための義援金を広く呼びかけています。今年度クラブ会長のギリ・ラムさんはネパール出身で、現地との連携チームを作り、山間部で支援の手が届かないエリアを中心に支援していきたいとのことです。

当会も義援金窓口を設置しています(詳細はHPをご覧ください)。6月22日着金分までを第1弾としてネパール米山学友会へ送金します。同学友会では現在、スレス会長を中心に水の確保や小学校再建など用途を検討中です。決定次第ご報告いたします。

博士号取得状況 — ご報告お待ちしております —

2014 学年度（2014 年 4 月～2015 年 3 月）に博士号を取得した奨学生・学友は 45 人、累計では 3,497 人です（5 月 11 日現在）。米山記念奨学会では、博士号を取得した奨学生・学友に、お祝いの腕時計をお贈りしています（奨学期間後も申請 OK！）。記念になると好評で、何十年も大切に使うとくださる学友もいます。博士号を取得した奨学生・学友の皆さんは、ぜひ米山事務局に報告してください。※発送は国内のみ

申請方法

「学位記の写し」が「学位取得証明書」を世話クラブ経由で米山奨学会へ FAX またはメールでお送りください。

(FAX : 03-3578-8281/メール : scholars@rotary-yoneyama.or.jp)



ぜひ世話クラブの例会で贈呈を！

文字盤の裏にお名前が入ります

美化活動を通じて日台の懸け橋に — 台湾米山学友会 —

台湾米山学友会では、2007 年から毎年、台湾美化協会の年次大会に通訳事務ボランティアとして協力しています。4/18～19 に開催された今年の年次大会には、学友やその家族・友人や日本人奨学生など、台湾学友会から過去最多の約 30 人が参加。日本からの参加者約 130 人と交流を深め、懸



け橋として活躍しました。6 回目の参加となる学友の王秉棟さん（1987-89／桐生南 R C）は「参加を機に子どもが進んで掃除をするようになったと感謝する母親の話聞き、あらためてやりがいを実感しました」と、また、台湾学友会が支援する日本人若手研究者奨学生の三浦崇志さんは、「知らぬ間に台湾に対する固定概念ができていて、ここでの経験^{ワンピントン}を純粋に受け止めていなかったと気づかされました。今回の活動は、そんな固定概念や先入観を洗い流してくれたように感じます」と、それぞれの感動を語ってくれました。

2015 年度帰国学友歓迎会を開催 — 韓国米山学友会 —

韓国米山学友会主催の帰国学友歓迎会が 4 月 25 日、ソウル市内で開催されました。今年度は 6 人の帰国学友が参加し、学友会メンバー 19 人から温かい歓迎を受けました。3 月に奨学期間を終えたばかりの元 賢喜^{ウオンヒョンヒョ}さん（2014-15／東京田園調布 R C）は当日、釜山から参加。帰国学友の仲間や先輩学友たちとの出会いと交流を楽しみました。「このように歓迎の場を設けてくださった先輩たちに感謝します。日本では苦勞もたくさんありましたが、米山奨学生として毎月例会に参加し、ロータリアンと交流したのは何よりの思い出で、世話クラブの皆さんとは帰国後も連絡を取り合っています。6 月からソウル勤務になるので、韓国学友会の会員として積極的に活動したいと思います」と感想を寄せてくれました。同学友会の全 炳台^{ジョンピョンドンテ}会長は「この場で新しく理事として奉仕を申し出てくれた学友もいて、大変うれしかった。今後もこのような機会を設けて、積極的に協力してくれる学友を少しずつ増やしていきたい」と、手応えを語りました。

